

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2024年 第23週（6月3日～6月9日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 さらに増加」

第23週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は4,053例であり、前週比7.1%増であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ7.33、5.57、4.45、1.05、0.84である。

手足口病は前週比20%増の1,436例で、南河内10.88、中河内10.68、北河内9.88、大阪市北部9.21、堺市7.74であった。9ブロックで警報レベル開始基準値である5を超えている。国内ではコクサッキーウイルスA6が優位に検出されている。

感染性胃腸炎は2%減の1,091例で、南河内8.69、豊能7.45、大阪市南部7.17であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9%増の873例で、北河内6.72、堺市6.16、南河内6.13である。

ヘルパンギーナは25%増の206例で、中河内2.37、大阪市北部2.36、北河内1.68であった。

咽頭結膜熱は2%減の164例で、中河内1.68、南河内1.13、三島1.06である。

新型コロナウイルス感染症は9%増の724例で定点あたり報告数は2.38であった。堺市3.17、南河内3.13、泉州2.74、大阪市北部2.60、北河内2.40である。

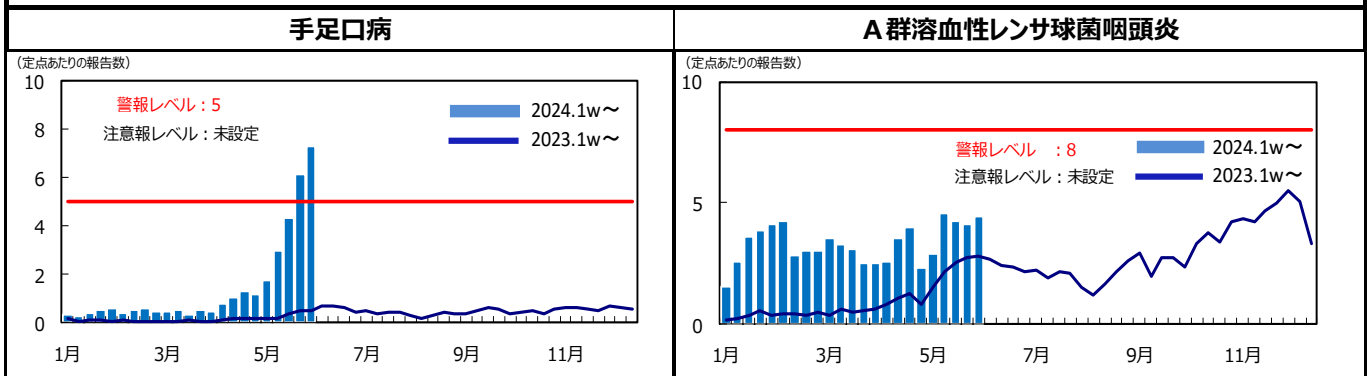


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2024年 第23週6月3日～6月9日）

第23週の順位	第22週の順位	感染症	2024年 第23週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2023年 第23週の 定点あたり 報告数	2024年第23週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	7.33	20%増	0.47	1歳_32%
2	2	感染性胃腸炎	5.57	2%減	4.74	1歳_13%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.45	9%増	2.72	5歳,6歳_12%
4	6	ヘルパンギーナ	1.05	25%増	4.66	1歳_26%
5	5	咽頭結膜熱	0.84	2%減	0.89	1歳_40%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	2.38	9%増	4.33	10-19歳_15%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降(大阪府)』の情報をご覧ください。

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

第23週のコメント

～レジオネラ症～ 2023年において、大阪府では132例、全国では2271例の報告がありました。

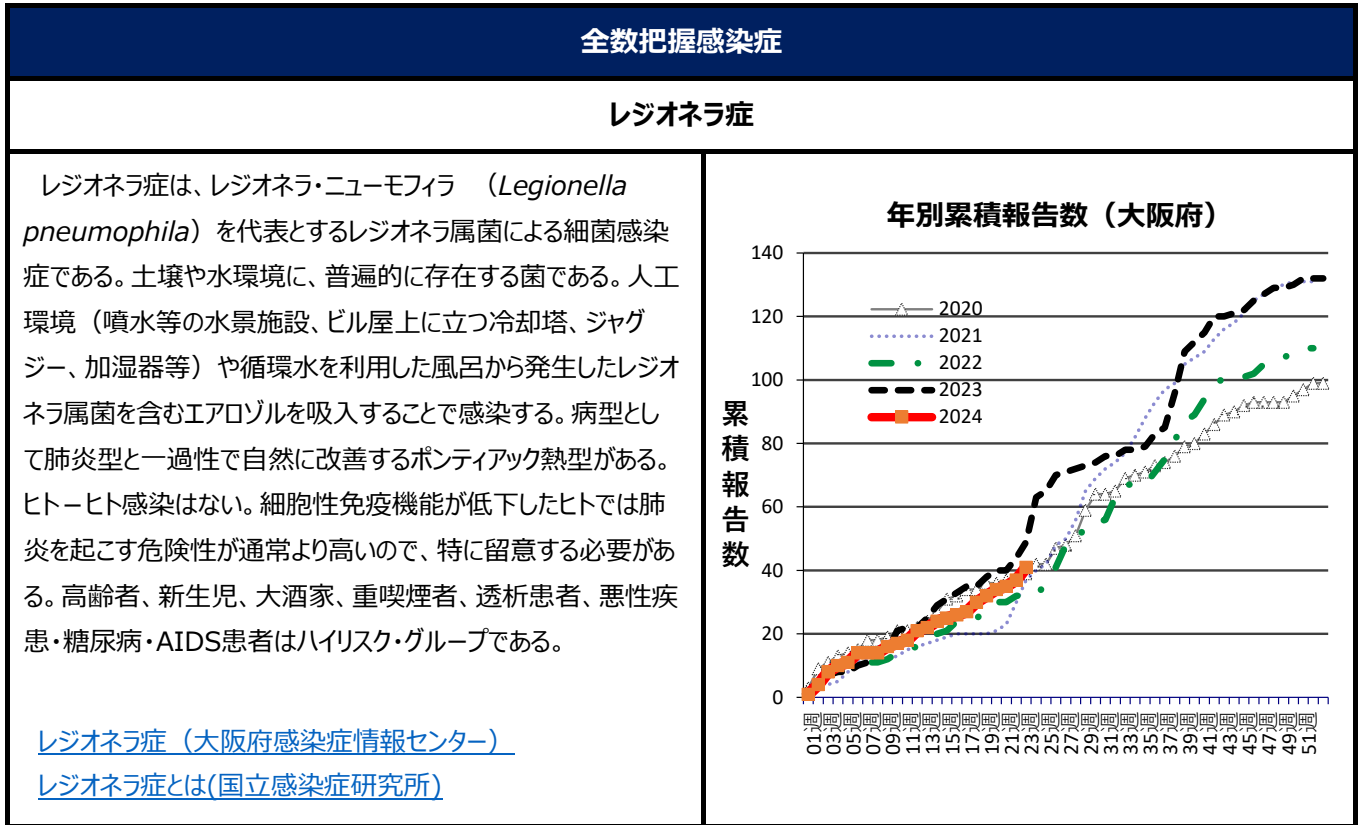


表 2. 大阪府全数報告数（2024年 第23週6月3日～6月9日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5			2					3	46
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	4					1			3	41
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1								1	6
	後天性免疫不全症候群	1								1	41
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1								1	30
	侵襲性肺炎球菌感染症	4								4	126
	梅毒	28	1		3	1			2	21	763
	百日咳	1			1						22
結核 (2024年4月分)	結核 新登録患者数：93名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 28名) (府内累積報告数 321名、内 肺・喀痰塗抹陽性 123名)										

(2024年6月11日 集計分)